

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【有田振興局】 有田川町4Hクラブがドローンによる薬剤散布実証試験を開始

令和4年8月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1</b>
1. インドネシア研修生を受け入れています	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>2</b>
1. 紀ノ川農業協同組合トレーニングファーム部会「ふたば塾」の入校式が開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>3-4</b>
1. 新規就農者研修会（農業機械メンテナンス研修会）を開催	
2. 農業技術講習会（野菜コース）第2回を開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>5-6</b>
1. 有田みかん地域農業遺産推進協議会総会を開催	
2. 有田川町4Hクラブがドローンによる薬剤散布実証試験を開始	
<b>V 日高振興局</b>	<b>7-8</b>
1. みなべ梅郷クラブがアサヒ飲料株式会社との意見交換会を開催	
2. ニューファーマーズ激励会を開催	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>9-12</b>
1. ほおずき栽培検討会及び実証試験を実施	
2. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催	
3. 水稻優良種子生産に関するほ場検査を実施	
4. 西牟婁地方4Hクラブがうめの消費に関するアンケート調査を実施	
5. 中辺路町生活研究グループが現地研修会を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>13</b>
1. 三津ノ地域活性化協議会が稲刈り体験を開催	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>14-15</b>
1. 夏のオープンキャンパス 2022 開催	
2. 2年生アグリビジネス学科食品工学の講義を実施	

# I 海草振興局

## 1. インドネシア研修生を受け入れています

公益社団法人国際農業者交流協会が実施しているアジア農業青年人材育成事業として、管内では海南市下津町の柑橘農家がインドネシア研修生を受け入れている。

研修生は5月6日に来県し研修を受けており、8月3日、同協会の担当者とともに研修状況の確認を行った。研修生は自国でオレンジを栽培しているため、農家へ質問したいことは多いが言葉が伴わずもどかしいようだった。それでも来県した当初よりもかなり日本語を話せるようになっており、日々の努力が垣間見えた。

また、8月10日には、地方研修として、和歌山市中央卸売市場、JAながみねファーマーズマーケットとれたて広場、和歌山県国際農業者交流協会会長ほ場、果樹試験場を視察した。研修生は、同会長から柑橘の栽培方法や経営規模、出荷方法、導入されている機械などについての説明を受け、興味津々の様子で「摘果はどうするのか?」「販売先はどこか?」など質問をしていた。

農業水産振興課としては、研修がスムーズに実施できるようにインドネシア研修生と受入農家の支援を行っていく。



面談の様子



機械の説明を聞く研修生

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 紀ノ川農業協同組合トレーニングファーム部会「ふたば塾」の入校式が開催

8月22日、紀ノ川農業協同組合トレーニングファーム部会「ふたば塾」（部会長：児玉幸造氏）の2022年度入校式が開催された。

本部会は、平成30年度にトレーニングファームの認定を受けて以降、これまでに9名の研修生を受け入れ、就農へつなげている。研修品目も果樹、野菜、水稲と幅広く、研修受入農家は県下全域に広がり、新規就農者の確保に大きく寄与している。

今年度は、新たに第4期生6名が入校。研修開始時期は品目によりそれぞれ異なるが、全員が2年間の研修を予定している。

入校式では、宇田組合長から「若い人が入ってくると、地域には励みになる。一方で、色々な役割も頼まれると思うが、そこは自分ができる範囲で受けてほしい。自分自身が地域で豊かに幸せになってほしい」と挨拶があった。

その後、研修生の自己紹介では、それぞれが目指す農業形態の紹介に加え、実際に研修を受けている中で感じたこと、また「将来は自分自身も研修の受入ができるような農家を目指したい」といった抱負が語られた。

最後に、受入農家から「農地の確保も含めてサポートするので、安心して研修してほしい」「技術は研修で学べるが、仲間づくり・人間関係が大切」「楽しんで農業をしてほしい」といった励ましの言葉があった。

那賀振興局では、研修生のスムーズな就農と地域への定着に向け、今後も関係機関と連携して支援していく。



入校式の様子

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 新規就農者研修会（農業機械メンテナンス研修会）を開催

8月29日、農業水産振興課では、新規就農者の技術・経営力向上と相互交流を図るため、農業機械をテーマにした新規就農者研修会を開催し、9名が受講した。

今回は、元農林大学校職員の川原康高氏を講師に、農林大学校機械棟において農業機械の講習を行った。最初に受講者一人一人が自己紹介をし、続いて川原氏から刈払機の構造やメンテナンスの説明を受け、実際に研修生が刈払機に触れながら構造や機能について学んだ。その後、動力噴霧機や管理機等についても機械を見ながら説明を受けた。

受講者からは「刈払機には様々な種類があるが、どのような違いがあるのか」「他の機械についてのメンテナンスも教えてほしい」などの質問、意見があった。

当課では、今後とも新規就農者の技術・経営力の向上を目的とした研修を行っていくとともに、相互の交流を深めるための支援を行っていく。



研修会の様子（左：講義、右：刈払機メンテナンス実習）

## 2. 農業技術講習会（野菜コース）第2回を開催

農業水産振興課では農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（野菜コース）を全3回で計画している。8月26日に第2回目を開催し、受講申し込み23名のうち12名が受講した。

当日は、農業水産振興課の久保普及指導員から、はくさい、キャベツ、だいこん、にんじんなど秋冬野菜の栽培のポイントについて説明した。その後、キャベツのは種実習を行い、セルトレイへの培土の詰め方や覆土量、かん水方法など、実演を交えて説明を行った。

受講者から、キャベツの収穫方法やたまねぎの植え付け方法についての質問や、セルトレイ育苗の方法が分かったなどの感想が聞かれた。

当課では、今後も講習会を開催し、農業の担い手育成と栽培技術の向上を図っていく。



講義の様子



キャベツのは種実習

## IV 有田振興局

### 1. 有田みかん地域農業遺産推進協議会総会を開催

8月4日、有田振興局において有田みかん地域農業遺産推進協議会総会が開催された。令和3年2月に日本農業遺産に認定された後、活動期間を経ての初めての総会であり、委員が出席しての総会は2年ぶりの開催となる。

総会議案である事業経過報告及び収支決算、事業計画及び収支予算案が承認された後、一般から応募があった813点のロゴマークを事前に審査会で3案まで絞り込んでおり、今回決定した。最後に、本年度は役員改選の年度にあたり、会長（ありだ農業協同組合代表理事組合長森田耕司氏）、副会長（4市町首長）とも留任となった。

今後は、ロゴマークの商標登録申請を行い、受賞者の発表へと進めていく。また、ロゴマークを活用したPR資材の作製等を行う予定。



有田みかん地域農業遺産推進協議会  
中山副会長による議事運営



上山副会長の閉会挨拶



## 2. 有田川町4Hクラブがドローンによる薬剤散布実証試験を開始

8月31日、有田川町4Hクラブ（会長：谷端航平氏）及び株式会社オプティムが、果樹試験場、農業水産振興課協力の下、有田川町徳田及び中井原の温州みかん園でドローンによる薬剤散布実証試験を開始した。

実証試験は、樹に感水試験紙をセットし、ドローンから噴霧される粒径を大と小の2種類で検証を行った。薬剤は、殺菌剤及び殺虫剤を混用散布した。集まった4Hクラブ員は「この少量でこの面積の葉散ができるのはすごい」、「想像以上に果実や葉に薬剤が付着している」、「画期的である」、「これからドローン散布の時代が来る」、「ドローンを購入したい」との意見があり、熱心に見入っていた。

今後は9月下旬頃に収穫前の最終の薬剤散布をドローンで行い、手散布を慣行区として病害虫の発生状況を比較する。



感水試験紙の設置



ドローンによる薬剤散布実証

## V 日高振興局

### 1. みなべ梅郷クラブがアサヒ飲料株式会社との意見交換会を開催

県では、県産うめの認知及びブランド力向上に資するため、アサヒ飲料（株）が県産のうめを使用して製造・販売を行っている炭酸飲料『「三ツ矢」梅』のPRに協力してきた。そのような背景から、今回アサヒ飲料（株）から「うめの生産現場の生の声を聞きたい」との要望があったため、みなべ町の若手生産者を代表して、みなべ梅郷クラブ（会長：前山拓海氏、以下「梅郷クラブ」）が対応し、8月4日にみなべ町で意見交換会を開催した。

意見交換会にはアサヒ飲料（株）関係者、梅郷クラブ員 8 名の他、みなべ町役場うめ課、県食品流通課、振興局農業水産振興課職員の計 15 名が参加した。

まず、みなべ町役場において、うめ課木田主幹から世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」の概要について、次に梅郷クラブ員の山本宗一郎氏から「耕作放棄地のうめ樹伐採」、中井貴章氏から「ニホンミツバチ保護」のプロジェクト活動について説明を行った。その後、梅郷クラブ員山本秀平氏のうめ園及び梅干し生産現場（みなべ町晩稲）、梅郷クラブプロジェクト活動現地（みなべ町東本庄）を案内し、うめ生産、産地の活性化に懸ける想いや将来のうめ産業のあるべき姿等について、活発な議論を交わした。

クラブ員からは、「よく知る飲料メーカーに生産現場を見てもらえることは大変光栄。機会があれば是非一緒に仕事をしたい」との声があった。また、アサヒ飲料（株）も「お伺いできてよかった。現場の皆様の熱い声をこれからの商品開発に反映していきたい」と語った。

当課としても、今回の意見交換会のような場のマッチング等を通じて、県産品のPRにつながる取組を継続していく。



意見交換会

（左：みなべ町役場、中：山本秀平氏漬梅倉庫、右：プロジェクト活動現地）

## 2. ニューファーマーズ激励会を開催

8月29日、印南町のサンシャイン牧場・果樹園において、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：岡有輝氏、会員27名）と農業水産振興課の共催で「ニューファーマーズ激励会」を開催し、新規クラブ員2名と4Hクラブ員12名が出席した。

当激励会は、4Hクラブ員が日高地方の新規就農者や新規クラブ員を激励し、地域農業の担い手としての自覚を持ってもらうことや、同年代の農業者との交流を目的としている。

開会にあたり、岡会長が新たに仲間入りをした新規クラブ員に対して、歓迎と激励の言葉を述べた。続いて、参加者それぞれが、自身の栽培品目や就農の経緯、今後の目標などについて、自己紹介を行った。その後、新谷副会長が新規クラブ員に向けてクラブの活動内容を説明した。最後に構成する各地域のクラブの会長がそれぞれの活動紹介を行った。

今後、当課は、日高地方4Hクラブと協力し、クラブ員、新規就農者向けの研修会などを行っていく。



挨拶をする岡会長



自己紹介をおこなう新規就農者

## VI 西牟婁振興局

### 1. ほおずき栽培検討会及び実証試験を実施

管内では、8月盆の直売所出荷向けにほおずきが栽培されている。現在、ほおずき栽培は、前作のほ場から掘り上げた地下茎を次作の定植苗として利用しているが、この方法では白絹病、斑点細菌病などの病原菌やウイルス等を持ち込む危険性が高いことから対策技術が望まれている。このため、農業水産振興課では生産者やJA紀南営農指導員とともに昨年からの実生苗から養成した地下茎を植え付ける方法について、5カ所のは場で実証試験を行っている。

7月19日に、試験ほ場の生産者、営農指導員、暖地園芸センター研究員、谷普及指導員の計13名が出席し、栽培検討会を開催した。谷普及指導員から実証試験の生育調査（5月、7月）結果を報告し、各生産者の栽培管理状況や試験内容に関する意見交換を行った。

生産者や営農指導員からは「実生苗の地下茎による栽培では、従来の地下茎より明らかに白絹病などの病害の発生は少ない」、「この方法は病害面だけでなく、定植や芽かき作業の省力化につながる」、等の多くの意見が出された。

また、8月22日には次年度の実証試験に向けて、田辺市秋津川の生産者、JA紀南営農指導員、谷普及指導員が試験ほ場で採取した種子を200穴セルトレイに播種した。

当課では、安定した需要のある切り花の有利品目として、生産者や関係機関と連携し、安定生産および省力化技術の確立に取り組んでいく。



栽培検討会



は種作業

### 2. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

クビアカツヤカミキリは、うめ、もも、すもも、さくら等のバラ科樹木を加害する特定外来生物で、現在は紀北地方の4市2町にまで被害が拡大している。

当地方に侵入すれば、主要品目であるうめへの被害が急速に拡大することが想定される。早期の発見・防除対策が非常に重要であることから、関係機関における情報共

有と調査の実施を目的として、令和2年度に西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（構成：市町、JA、うめ研究所、林業試験場、振興局関係課、事務局：農業水産振興課）を設立している。

8月2日に開催した連絡会議では、対象樹種の調査や啓発活動の状況報告、連絡体制の見直し等を行った。管内では、うめ・すもも・さくらの3品目で定点調査を年2回実施しており、8月末までに延べ3,025本を調査、被害は確認されていない。また、市町所管施設の敷地内におけるさくら樹等の調査や、広報誌への記事掲載等による啓発状況についても共有を行った。

連絡体制の見直しについては、啓発効果により、住民からの通報が増加することを想定し、関係機関の役割をより明確化した見直し案を提案、了承を得た。

当課では今後とも、調査・啓発による早期発見の取組を継続するとともに、迅速な初動対応、連絡会議の運営を行っていく。



クビアカツヤカミキリに対する意識を共有

### 3. 水稻優良種子生産に関するほ場検査を実施

農業水産振興課では、水稻優良種子の安定的な供給のため、県農作物種子協会が行う種子生産において、生産者への指導や採種ほ場の検査等を行っている。

現在、県内では西牟婁地方のみで種子生産が行われており、田辺市中辺路町3カ所と上富田町1カ所の計4カ所で「キヌヒカリ」、「ミネアサヒ」、「きぬむすめ」の3品種が作付けされている。



出穂期のほ場

8月3日と22日に、県農業協同組合連合会の担当者、JA紀南営農指導員、当課の木村技師の3名が出穂期と糊熟期のほ場検査を実施し、種子伝染性病害や異品種混入がないことを確認した。生育初期はいもち病の発生が懸念されたものの、その後天候に恵まれたため問題なく、生育は平年に比べ、やや前進している。

今後は収穫後の生産物検査や、農業試験場での発芽率検査が予定されており、当課では引き続き優良種子の生産に向け、生産者への助言や指導を行う。

#### 4. 西牟婁地方4Hクラブがうめの消費に関するアンケート調査を実施

8月6日、7日の2日間、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：北川翔大氏）は、田辺観光協会の主催する田辺・扇ヶ浜梅干しPRイベントにおいて、うめの消費拡大に向けた活動の一環として、アンケート調査を実施した。

イベントでは白干し梅の展示と試食コーナーが設けられ、クラブ員は、試食した人や海水浴客にうめの購入方法、好きな梅干しの種類、梅干しを食べる頻度、好きな梅製品といった項目について調査し、計127人の回答を得ることができた。年齢を問わず梅干しを好きな人が多かったことに驚き、梅農家としてのやりがいや改めを感じていた。また、「小さい頃から食べ慣れているので好き」、「健康のために毎日食べている」、「酸っぱいのは苦手だが、甘いものは食べられる」、「ごはんがすすんでおいしい」などの声が聞かれた。

集計の結果、ネットで購入する人が2%と少ないこと、若年層ほどはちみつ梅を好む人が多いこと、年齢が下がるにつれて梅干しを食べる頻度が低下する傾向があること等が分かった。

これらの結果をもとに、若い人にも日常的にうめを口にしてもらえるような活動について検討することになり、農業水産振興課では具体的な取組の実践に向け支援していく。



イベント会場



聞き取りをするクラブ員



梅の天日干し

#### 5. 中辺路町生活研究グループが現地研修会を実施

中辺路町生活研究グループ（会長：森川敏子氏）は、令和元年からジビエの美味しさを知ってもらうおうと、地元中学校でジビエ料理指導に取り組んでいる。8月7日、調理技術向上のため研修会を開催し、会員5名が参加した。

田辺市上芳養のフランス料理店にて、更井亮介シェフからジビエは食肉処理の許可を受けた施設から仕入れること、生では絶対食わずに十分加熱することが基本で、さ

らに調理する場合、低温でじっくり長時間加熱することなど、ジビエを安心・安全に、美味しく食べるためのルールとポイントについて説明を受けた。

その後、更井シェフが2時間程煮込んだ鹿肉のすじ肉と赤身を使った「鹿肉の水煮」と「鹿肉のコロッケ」、「鹿肉のチンジャオロースー」を試食した。

会員からは、「どの料理も美味しい」、「すじ肉を煮込むとこんなに柔らかくなると思わなかった」、「色々なジビエ料理を考えてみたい」の感想があり、新しいメニューづくりの参考になった。

今後も農業水産振興課は、学校への食育活動に取り組む生活研究グループの活動を支援していく。



更井シェフの説明を聞く会員



試食したジビエ料理

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 三津ノ地域活性化協議会が稲刈り体験を開催

8月24日、近畿大学附属新宮中学校の1年生48人は、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保氏）、JAみくまの及び農業水産振興課の指導のもと、稲刈りを体験した。この稲は、同校生徒が4月25日に、新宮市熊野川町の三津ノ地区の水田において、田植えしたものである。

生徒たちは、JAみくまの営農指導員から鎌の使い方などの説明を受けた後、稲を刈り取る班と刈り取った稲の束を運搬する班に分かれて作業を進め、その場で三津ノ地域活性化協議会メンバーらがコンバインで脱穀した。その後、倉庫に移動し、袋詰めまでの流れを見学した。

生徒からは、「米作りや農業全般の大変さが改めて分かりました。お米の大切さを今まで以上に実感し、感謝していきます」「農家の人たちはすごいと思った」等の感想があった。

この日収穫した米は、「近中米」として同校の保護者を中心に販売される予定である。当課では引き続き、食育の支援を行っていく。



稲刈りの体験



倉庫内の見学



## Ⅷ 農林大学校

### 1. 夏のオープンキャンパス 2022 開催

8月2日、「夏のオープンキャンパス 2022」を農林大学校農学部で開催し、保護者を含め16名の参加があった。

入試の概要説明などのオリエンテーションを始め、在校生による学校紹介やラジコン草刈機や農薬散布用ドローン等の最新の農業機械を紹介した。特に農業機械については、参加者から多くの質問があり、興味を集めた。

実習・演習プログラムでは、園芸学科野菜コースの実習体験としておくらの収穫と出荷調整作業を、アグリビジネス学科では、農業経営者となって天候などのリスクに対応したり、輸出や6次産業化にチャレンジするゲーム形式の経営者体験を実施した。経営者体験では、農業で起こりうる問題や新しい販売経路などを知ることができて良かったとの声が聞かれた。

農林大学校では、オープンキャンパスを含め、学生募集活動を積極的に実施しており、県内農業を支える担い手の育成を進めている。

令和5年度入学生の募集については、推薦入試が9月13日、一般入試（前期）11月10日、一般入試（後期）2月8日からそれぞれ願書受付を開始する。



おくらの収穫



経営者体験

## 2. 2年生アグリビジネス学科食品工学の講義を実施

8月24日、農学部アグリビジネス学科2年生が食品工学の講義で「食品加工技術の基礎と食品の衛生管理」を学習した。

プラム食品株式会社の吉田氏と福西氏が食品加工技術を、株式会社東農園の林氏が食品の衛生管理の講師を務め、飲料や梅干しなどの梅加工食品について動画による作業工程の紹介や、商品のサンプルを持ち込んでの説明など臨場感のある講義であった。日々工場の作業に従事している講師の話に、学生は時々うなずきながら興味深く受講していた。

本講義を受けた学生にとって、食品表示や品質管理等の食品製造者責任の明確化やHACCP導入など習得した知識は大いに役立つと思われ、今後の活動に活かされることを期待している。



食品工学授業の様子

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489